

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	街道沿道における文化財公開施設見学者数	人	24,476	R2	36,283			30,000
2	関宿重要伝統的建造物群保存地区内の街道に面した建造物の修理修景事業の完了率	%	59.0	R2	62.2			66.0
3	国・県・市の指定等を受ける文化財の数	件	136	R2	136			138
4	史資料を活用し学校や地域の歴史学習を実施した回数	回	—	—	102			120
5								
6								
7								
8								

■ 市民アンケート調査

項目	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 文化財や歴史的なまちなみが保存整備されている	重要度 0.83 満足度 0.21			— 令和5年度の市民アンケートの結果を踏まえて、次年度に考察します。
2 歴史や文化をいかしたまちづくりが行われている	重要度 0.71 満足度 ▲ 0.15			
3	重要度 満足度			
4	重要度 満足度			

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上	関宿内の道路舗装の美装化工事を施工した。今後も美装化工事と文化財の保護を進め、東海道を中心とした街道の連続性や宿場間の一体感の確保に努める。
② 関宿重要伝統的建造物群保存地区の保護の推進	伝統的建造物等の修理修景事業を進めるとともに、消防との連携により地域とともに防災訓練を開催した。今後も地域の理解を得て伝統的建造物等の保存と活用を進めていく。
③ 鈴鹿関跡等の文化財の保存と活用	鈴鹿関跡の学術調査研究を進めるとともに、鈴鹿高校との連携によりネコギギの生息調査と保護増殖に努めた。今後も更なる文化財の保存と活用を進めていく。
④ 歴史資料の公開・活用による地域や学校との連携	まちの記録の編さんを進めるとともに、地域や学校と連携した取組を展開することで、市民の歴史や風土への理解や愛着と誇りの醸成を図っていく。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上については、関宿内の道路舗装の美装化工事を一部、施工するとともに、重点区域内の文化財案内看板を設置した。関宿伝統的建造物群保存地区の保護の推進については、地域住民の協力を得て事業を進め、修理事業を17件、修景事業を2件実施し、適正に補助金を交付した。今後も引き続き地域住民の理解醸成に努めながら、目標値の達成に向け計画的に修理修景事業を進めていく必要がある。鈴鹿関跡学術調査事業については、現地説明会等を実施することで、国史跡である鈴鹿関跡を市内外に広くPRすることができた。また、学術調査専門委員会の助言を得て総括報告書を作成する過程において、これまでの学術調査で明らかにされていなかった西辺築地塀の遺物や遺構の解明を進める事が出来た。しかしながら、総括報告書の刊行については、学術調査専門委員会から遺物や遺構の考察が不十分であるとの指摘もあり、刊行までには至らなかったことから、引き続き、学術調査専門委員会と調整を図り、報告書の刊行を行うとともに、今後の活用に向けて、指定範囲の公有地化を図る必要がある。歴史資料の公開・活用による地域や学校との連携については、歴史博物館において、企画展や自由研究ひろば等を開催するほか、市内の全小学校へ「歴博貸出ユニット」の貸出を行うとともに、地域学習支援員より、各学校へユニットの利用促進を行った。また、まちの記録編さん事業については、図書館をはじめ作業部会において、その概要を共有し、準備を進めることができた。今後は、基本とする根拠資料の絞り込みと資料収集を円滑に進めていく必要がある。	<p>B</p> <p>まずは進んだ</p>
---	-------------------------------

今後の展開方針

東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上を図るため、街道の環境整備や文化財の保護に取り組むとともに、伝統的建造物群保存修理修景事業については、引き続き住民の協力を得ながら計画的に修理修景事業の進捗を図り、適正な補助金の交付を行う。文化財の保存と活用については、鈴鹿関跡の国の史跡指定地として保存と活用を図るため、総括報告書を刊行するとともに、指定範囲の公有地化を図る他、国指定天然記念物ネコギギの生息調査と保護増殖について、関係機関と連携のもと進める。また、歴史的価値の高い建造物については、新たな文化財としての指定なども視野に入れた取組を進めていく。まちの記録編さん事業については、令和6年度の市制20周年に併せた刊行に向けて、文章執筆や撮影等を進め、記録の編さん作業を行っていく。